

外国語科学習指導案

徳島県立脇町高等学校
指導者 種盛 浩士
金丸 ひとみ

- 1 履修単位数 4 単位
- 2 実施日時 令和6年9月27日（金） 第3時限
- 3 学 級 21HR（33名）
- 4 使用教科書 BLUE MARBLE English Communication II（数研出版）
- 5 単 元 名 Lesson 4 Approaches to Food Waste

6 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第2学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
「食品ロス」に関する英文を聞いて、概要や論点を捉えることができる。	「食品ロス」について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握できる。また、本文に関して、言語材料や本文の論理展開を理解して読むことができる。	「食品ロス」について、ペアやグループでやりとりして、情報や考えを伝え合うことができる。	「食品ロス対策」について、自分が政府や産業界、消費者等と協力してできることを考え、スライドを見せながら発表できる。	「日本の食品ロスの現状とその解決策」について、事実や自分の考えを書くことができる。

7 単元設定の理由

○教材観

【外国語】本単元は、日本の食品ロスの現状（食品ロスの種類やフードバンクのような関連機関に関する事実や意見）とその解決策について取り上げている。ペアワークやグループワークを通して本文の内容理解をするとともに、得た情報から自分の考えを聞き手に分かりやすく伝える能力を伸ばすのに適した内容となっている。

【家庭基礎】本単元で取り扱う内容については、1年次に取り扱った家庭基礎に紐づいている。当該単元においては、家庭系食品ロスについて特に焦点を当てて扱っており、消費者としてロスをどう削減するか生徒たちが環境の維持や持続可能な社会を構築するために必要な生活の在り方等について思考・理解できる教材になっている。

○生徒観

本学級は文系クラスであり、生徒同士の関係も良好である。ペアワークやグループワークなどに積極的に取り組むことができるクラスで、クラス内の誰とでも協力して活動することができている。しかし一方で、授業中は生徒が1人で発言することにやや消極的で、教員の問いかけに対して決まった数人の生徒が答えているといった印象が課題として見受けられる。

○指導観

以上のことから、本単元では、脇町高校英語科が独自に設定した「CAN-DOリスト」の「話すこと[発表]」に関する目標に指導の焦点を当て、この単元で学習する知識や言語材料を用いて、自分の考えを口頭で説明する活動につなげたい。食品ロスの種類や日本の食品ロスの現状、フードバンクのような機関について読み取り、その内容について、聞き手が理解しやすいように要点を整理し、ペアで伝え合わせたい。また、自分たちができる食品ロス対策についても、英語で考えを発表する場を設けたい。特に事業系食品ロスの問題とその解決策に焦点を当て、消費者以外の視点から食品ロス問題について学習し、解決に向けて自分たちができることを考えさせたい。そしてグループでプレゼンテーションを行うために、食品ロスを減らすための取り組みについてのスライドを作成し、食品ロスに対して自分たちができることを考えて、考えを述べさせたい。発言内容の適切さや妥当性ととも、活動への意欲的な参加や主体的・論理的に考える姿勢も重視していきたい。以上のことを通して、食品ロス問題は身近なもので、他人事ではなく自分事であると意識させたい。

8 単元の目標

- (1) 食品ロスに関する発表形式の文を必要に応じて日本語や英語で読んだり聞いたりして、特に重要な事実等を捉えることで、全体の要旨を家庭基礎で学習してきたこととつなげ合わせながら理解することができる。
- (2) 食品ロスの問題に関心を持つとともに、食品ロス対策について日本語で考え、自分の言葉（英語）で伝えることができる。

9 単元の評価規準（「話すこと[発表]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声を理解している。</p> <p>〈技能〉 食品ロス対策について、情報や考えを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、食品ロス対策について、情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、食品ロス対策について、情報や考えを、聞いたり読んだりしたことを基に、理由とともに話して伝えようとしている。</p>

10 指導と評価の計画（9 時間）

時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	評価			備考
		知	思	態	
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■食品ロスに関するニュース映像を視聴し、情報や考えを共有する。</p> <p>①食品ロスについて知っていることを、クラス全体で共有する。</p> <p>②日本の食品ロスの現状についてのニュース映像を視聴し、内容を確認するとともに、感想をペアで話して伝え合う。</p>	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して学習の振り返りは適宜行わせる。 評価を後日ペーパーテストで行う。
2 3 4	<p>■食品ロスについて、高校生のプレゼンテーションに関する教科書の内容を読み、情報を整理しながら、考えたことを話して伝え合う。</p> <p>①食品ロスについて調べてきたことを、ペアで話して伝え合う。その際、聞き手は疑問点を話し手に尋ね、やりとりが続くようにする。</p> <p>②教科書の本文を読み、日本の食品ロスの現状について読み取る。</p> <p>③読み取った内容を要約し、ペアで共有する。</p>	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 評価を後日ペーパーテストで行う。
5 6	<p>■食品ロス対策についての文章を読み、理解する。</p> <p>①教科書の本文を読み、食品ロスについてやフードバンクの取り組みについて、家庭科教員から説明を聞く。</p> <p>②自分たちが地方自治体や産業界、食物生産者と協力して実現できそうな食品ロス対策のアイデアを考える。</p> <p>③②で考えた食品ロス対策を、グループで共有する。その際、聞き手はさらに聞きたいことを尋ねる。</p> <p>④グループで一番良いアイデアを選出する。</p>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 評価をワークシートで行う。
7 8	<p>■発表の準備を行う。</p> <p>①前時で選んだ食品ロス対策のアイデアを用いて、スピーチのアウトライン及びスライドを作成する。</p> <p>②教員のモデルスピーチを聞き、音声や態度について確認する。</p> <p>③①で作成したアウトラインを活用し、グループでスピーチの練習を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 本単元の評価に照らして観察し、本単元で学習した語句や表現の活用、スピーチの構成、音声上の留意点、発表態度について確認をし、適宜フィードバックを行う。
9	<p>パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちが地方自治体や産業界と協力してできそうな食品ロス対策について、考えを理由とともに話して伝える。 	○	○	○	

1.1 本時の活動（第6時）

(1) 目標

自分が考えた食品ロス対策について、相手に分かりやすく伝えることができるように、声の大きさやアイコンタクトなどを意識して話すことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
2分	1 挨拶をし、本時の目標について知る。			
<p>To come up with the idea how we can reduce food waste collaborating with the local government, industries, and food producers.</p>				
10分	2 食品ロスについて復習する。 ①食品ロスの種類やフードバンクの仕組みについて家庭科教員による説明を聞く。 ②聞いた内容について理解を深めるために、ペアで英語で共有し、それをワークシートに書く。			
15分	3 事業系食品ロスの削減について、自分ができるところを考えて書く。 ①アイデアを考えやすくするために、県内高校生の取り組みが書かれた新聞記事を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で、どんな事業や何の生産者と協力・連携して食品ロス削減の仕組みづくりができるか具体的に考えさせる。 		
10分	4 3で考えたことをグループで話し合い、代表意見を1つ選出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに協力しながら対話を継続させ、グループ全員で意見を交換し、内容を深めることができるようにさせる。 		
7分	5 各グループの代表意見を全体で発表する。			
5分	5 話し合いに関して自己評価をさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用い、言語活動の到達度や話し合いへの貢献度を自己評価させ、今後必要な努力や準備について考えさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思 態</div>	ワークシート

(3) 評価及び指導の例（「話すこと」「発表」）

「十分満足できる」と判断される状況(a)	自分が考えた食品ロス対策を相手に分かりやすく伝え、そのアイデアについて聞き手に興味・関心を持たせることができる。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	自分が考えた食品ロス対策を相手に分かりやすく伝えることができるように、声の大きさやアイコンタクトなどを意識して話すように支援する。
「努力を要する」状況(c)と判断した生徒への事後指導	音声や態度などについて再度意識させ、教員のみに対して発表させ、フィードバックも行うことで「おおむね満足できる」状況(b)を達成できるようにする。